

橿原考古学研究所紀要



—— 第 4 2 冊 ——
2019

序

橿原考古学研究所は、平成30年9月13日に創立80周年をむかえました。これを記念して同年6月16日には記念式典を開催し、当研究所にかかわる多数の方々にご出席いただきました。式典では、当研究所の活動が今後ますます発展することへの期待を込めたお言葉を多数いただき、所員一同今後に向けて、調査・研究、公開・活用事業にさらに一層取り組んでいく決意を新たにしました。

これまで80年の橿原考古学研究所の歴史は、奈良県の考古学研究の歴史ともいえます。その間の調査研究成果は、発掘調査報告書をはじめさまざまな図書で公表してまいりました。昭和26年に創刊した「考古学論攷」もその一つで、今回で第42冊となります。長く中断した時期もありましたが、昭和50年代に入ってから、毎年度1冊の刊行を継続しております。所員の常日頃の研究成果の発表の場として、永く継続していく所存です。

今回は、巻頭に黒塚古墳出土三角縁神獣鏡33面を対象に鑄造技法と鏡背の仕上げについて、詳細な観察のもとに検討を行った論文、第二に天理参考館が所蔵する古墳時代の陶棺の彩色の蛍光X線分析による成分の検討とその評価を行った論文、第三に日本出土の絵馬を集成・分類し、馬表現の起源について古墳時代の馬表現、中国唐代の馬表現などと比較検討を行った論文、そして最後に平成29年6月25日に当研究所で開催した第3代所長岸俊男先生没後30年を記念した座談会の記録を掲載しました。

精緻な観察や分析に基づく古墳時代出土品を対象にした研究並びに発掘調査による古代の出土品を元に比較対象資料を中国まで広げた研究は、橿原考古学研究所が今後の創立100周年へ向けた新たな一歩を示すものです。さらにこのような実証的研究を当研究所で育んでいただいた岸先生の功績について、本誌で報告できたことに喜びを感じております。

平成31年3月22日

奈良県立橿原考古学研究所
所長 菅谷文則

目次

序

菅谷文則

黒塚古墳三角縁神獸鏡全 33 面の切削研磨程度・鑄造程度の評価とその傾向

— 鋸齒文の造範方法と縁内斜面の正円度の問題提起を含めて — …… 三船温尚 …… 1

天理大学附属天理参考館所蔵陶棺の彩色顔料の研究

— 緑色彩色を持つ陶棺の顔料分析 — …… 奥山誠義 柳田明進 鶴 真美 藤原郁代 …… 21

日本出土絵馬の基礎的研究 …… 前田俊雄 …… 33

岸俊男先生没後 30 年記念座談会 岸俊男先生の思い出を語る

…………… 田島 公 栄原永遠男 中尾芳治 泉森 皎 菅谷文則 川上洋一 …… 51

奈良県立橿原考古学研究所紀要

考古学論攷 第42冊

平成31年3月22日 発行

発行 奈良県立橿原考古学研究所

奈良県橿原市畝傍町1番地

印刷 株式会社明新社

奈良県奈良市南京終町3丁目464

ISSN 0287-9271